

自治連よなご

第63号

令和5年(2023年)3月1日発行

発行 米子市自治連合会
(事務局 米子市総合政策部地域振興課内)

編集 『自治連よなご』編集委員会

「自治会活動は防災の始まり」

地域振興課係長 眞壁 康夫

現在、米子市地域振興課で主に自主防災組織の活動支援等、地域防災を担当しておりますが、「米子市は災害が少なく、大山さんが守ってごす」とよく耳にします。その度、もし米子市で過去に経験したことのない、鳥取県西部地震以上の大規模自然災害が発生した場合、米子市民は状況に応じ、自分の命や家族を守る行動ができるのか、地域防災にとって何が大切か、よく考えるようになりました。

以前、鳥取県西部消防局に在職中、東日本大震災に緊急消防援助隊で出動しました。宮城県南三陸町戸倉区内で津波により町ごと流された荒れ野原の中から、倒れた「津波浸水想定区域ここまで」の看板(写真1)を発見しました。それは、この度の津波が過去に発生した津波の到達地点を遙かに越えていたことを表していました。以後いろいろな土地の災害の歴史について興味を持つようになり、いろいろ調べるうちに、今ではライフワークとなっております。

東北地方の災害史を調べると、太平洋沿岸部は過去何度も地震により津波が発生し多くの犠牲者を出し、「津波てんでんこ」のような言い伝えや、災害啓発のための石碑(写真2)などが各地に設置され、防災対策について代々継承されている地域です。それでも東日本大震災で2万人を超える尊い命が失われたことを考えると、災害に備えることの難しさ、厳しさを考えさせられました。

さまざまな土地の災害史を研究した結果、大規模災害発生時は避難と安否確認が最も重要課題であるという結論に至りました。平成30年7月豪雨災害において、避難することにより命が助かった岡山県倉敷市真備町在住の従妹に、「避難する時の判断は何が決め手だったの?」と聞くと、「近所の人と、一緒に逃げよう」と言ってくれたからだと答えました。それを聞いて、地域防災の最も大切な部分があるところと考えるようになり、今では防災講演で「自治会活動は防災の始まり」と題して、地域防災にとって近所付き合いが最も大切な備えであると訴えております。

(写真1)



宮城県南三陸町戸倉
津波で町ごと流されたガレキの中で根元から折れた看板。
ここより更に奥まで津波が到達していた。

(写真2)



岩手県宮古市姉吉 大津波記念碑
「高き居住は 見孫の和楽
想へ惨禍の 大津波
此処より下に 家を建てるな」

令和4年度 総務大臣表彰 受賞 県地区 みなみ自治会 会長 奥田 登氏

わがまちのふれあい活動



福米西地区

皆生海岸を多くの方にゴミ拾いしていただきました。子どもたちもたくさん参加しており、ゴミの多さにびっくりしていました。約40分程、ゴミを集めた結果、海岸がきれいになっていました。ゴミの不法投棄は止めて欲しいです。



宇田川地区

上淀自治会

上淀の八朔綱ひき行事は、平成20年には文化庁長官名で『無形民俗文化財選択書』を拝領しています。毎年9月第1日曜に行い、昨今はコロナ禍によりクチナワさんの胴体作りはせず、頭だけを総代により製作し奉納しています。



大篠津地区

昨年度はコロナ禍で行事の中止や規模縮小が相次いだため、「ひとづくりまちづくり実行委員会」の主導で、花火大会を開催しました。一度限りのつもりが、町民から多くの希望が寄せられ、今年度も花火を盛大に打ち上げました。



加茂地区三柳団地

2区自治会

新住宅・住民も増える中、昨年度から自治会防災会を中心に、コロナ禍において防災倉庫整備と同時に、初期消火訓練や防災食の試食を実施しました。今年度は緊急車両と共に記念撮影会を行い、参加世帯率120%の防災訓練を実施しました。



夜見地区

令和4年の夜見公民館祭は、同好会や個人の作品展示に加えて3年ぶりに前庭で特設コーナーを設置しました。青少年育成会によるお楽しみコーナーでは、子ども達が多数参加して当てくじや芋つり、輪投げに歓声をあげていました。



福米東地区

令和4年9月9日に、産業体育館で「福米東健康まつり」として自治会対抗の「輪投げ大会」と「健康相談会」を開催しました。健康・介護相談や各種体力測定などにも多くの方が参加され好評で、次年度も開催出来ることを願っています。



(有)松友
和食居酒屋 旬門
米子市明治町 154-1
☎ 0859-21-7088
魚ろばた 海座
米子市角盤町 1丁目 152
☎ 0859-21-3200

医療・保健・福祉 ホスピタウンネットワーク



医療法人
社会福祉法人

真誠会

米子ホスピタウン (河崎) 弓浜ホスピタウン (大崎)
米子中央ホスピタウン 外浜ホスピタウン 高齢者生活支援隊
(西福原、富士見町、皆生) (和田町、富益町、夜見町)

米子市河崎580 TEL 0859-24-5666 <http://www.hospitown.or.jp/>

二丁目自治会 啓成地区博労町

令和4年10月16日に、博2の伝統ふれあい運動会を開催しました。コロナ対策を実施しながら町内の高齢者・子ども会を中心に90名が参加しました。防災訓練も兼ねており、地域でお互いの絆を深め、ふれあう事の大切さを学び、今後も続けていきます。



春日地区

統合により廃園となった保育園跡地を活用して、「住民による住民の為のまちづくり」「住んで楽しいまち春日」をコンセプトに、子育て支援事業、健康福祉事業、自主防災事業などを目的とした、「春日地区まちづくり協議会」を設立し、令和4年11月6日に伊木米子市長を来賓にお迎えして、オープニングセレモニーを開催しました。現在、専門部会を中心に事業展開を行っています。



福生東地区

福生東地区の地域福祉推進委員会では、平成30年度から、人材バンクの設立や地域づくり啓発のための標語のぼり旗設置のほか、健康・生きがいづくりと外出支援の観点から、地域史跡のウォーキング大会などを企画し、「住みたいまち、住み続けたいまち」の地域づくりを進めています。



車尾地区

車尾小学校は、明治6年4月の創立以来、令和4年で150年を迎えました。この祝賀にあたり、地域住民・事業所等が学校への感謝と子ども達の健全な成長を願い、コロナ禍にあっても子ども達を屋外で十分に遊ばせたいとの校長の熱い思いに応え、このほどコンビネーション遊具を寄贈しました。



義方地区

コロナ禍の中、「運動会」に代わり、「健康まつり」を開催しました。鳥大アカベラサークルの合唱、柔軟体操に始まり、健康、介護、栄養相談、血管年齢、骨密度等の体力測定などを行い、軽めの運動で頭も体もリフレッシュできました。



大高地区

大高地区では、一昨年4月に避難所運営を担う「防災部」を結成しました。以後、避難所の実査やアンケート調査のほか、必需品購入の資金積立てなどを行っており、現在では、各部でマニュアルの作成を進めるなど、災害時対応に向け頑張っています。



和田地区

スーパーが無く高齢者の買い物困難者の多い和田町ですが、昨年9月からマックスバリュ移動販売車のお世話になっています。大変好評で巡回先では10～20人程の方が利用されており、今後、更に買い物困難者の増加が見込まれる和田町にとって、主要な事業としてバックアップして行きたいと考えています。



県地区

敬老事業の代替えとして、「健康まつり」と題して健康に関する相談コーナーや体力測定を行いました。コロナ禍ということで、事前申し込みを行い約50名の方が参加されました。また、ニュースポーツの体験をすることで更なる健康を維持していただけるものと感じました。



ml オーマ建設

〒689-3403 鳥取県米子市淀江町西原1299
TEL 0859-57-4908
FAX 0859-57-7344
E-mail: ooma2017@sea.chukai.ne.jp

ASSIST SECURITY SYSTEM'S

アシスト警備保障有限公司

〒683-0012 鳥取県米子市八幡 573-4
TEL 0859-26-5511 FAX 0859-26-5519

地域活動の感想画

米子市自治連合会 会長 奥田 登

米子市自治連合会では小学生の夏休みの課題として「地域活動の感想画の募集」を行いました。今年度、市内の小学校より178枚の絵画の応募があり、作品の応募のあった各地区の公民館で展示を行いました。また、審査会を行い入選作品等が選ばれて、入選作品の展示会などを行いました。

日頃から地域の多くの人たちが住みよいまちづくりのために様々な活動をされ、その中で、子どもたちの毎日も地域の多くの人たちに支えられています。絵画の応募については、子ども達に地域活動を通して人の温かさを感じた場面、活動に参加した場面など地域活動に対する関心を少しでも持ってもらえるよう、また、人と人とのつながりの大切さを理解してもらえるような取り組みになることを願い行いました。来年度以降も継続して募集を行っていきます。



応募のあった作品
(入選作品の一部)



最優秀賞



優秀賞



優秀賞



優秀賞

自治会長研修会報告

春日地区自治連合会 会長 内藤 英二

単位自治会の様々な課題解決の一助になればと令和4年12月3日に「明石コミュニティ創造協会常任理事 柏木登起氏」を講師にお迎えし、「多様な人材が参画できる地域づくり」をテーマに講演をして頂きました。当日は、コロナ感染拡大の最中で人数制限をしておの開催ではありましたが、男性67名女性4名、合計71名の方の参加がありました。少子高齢化と人口減少時代への進展、ライフスタイルの多様化、経済格差の拡大、地球環境問題の深刻化、自然災害の多発化・大規模化等々社会問題が山積みとなる状況下、これからの地域づくりを如何にしていくべきか、他地区の実践、様々なデータを例とした講話は非常に参考になりました。「守りと攻め」の拡大・拡充、担い手不足を補う為に多様な人が関わってつくる地域づくりの仕組みの必要性、多様な人の参加を促すために皆がワイワイ発言をしたり席次のレイアウトや女性も参加しやすい工夫をして「対話・楽しい」場をつくる事など参考になり有意義な研修会でした。今後も、研修委員会では機会がある毎に皆様に研修の案内をしていけたらと思う所です。参加者の皆様、お疲れ様でした。



鳥取県宅地建物取引業協会西部支部との協議

福生東地区自治連合会 会長 近藤 豊

令和4年12月2日に鳥取県宅地建物取引業協会西部支部の代表の方3名と対談を行い、平成28年に締結した、自治会加入促進に関する協定の確認も含めて、自治会加入促進ののぼり旗やポスターの贈呈を行いました。のぼり旗等を活用していただくことで、さらなる加入促進の啓発に繋がるようご協力を依頼し、ご賛同いただきました。また、子どもたちの見守り活動や、防犯灯の管理など、地域の安心・安全に係る活動も自治会が行っていることを、協会員の方を通して、マンション・アパートの住民の方たちへPRしてもらうようご協力を依頼したり、防災対策として、何かあった時のご近所付き合いの大切さなどを伝える等の意見交換を行い、今後も継続して協力しながら、自治会加入促進を図っていくことを確認できました。



編集後記

令和2年からの新型コロナウイルス感染症は、第八波による蔓延も起こっており、未だ収束が予測できない状況が続いています。地域の自治会活動・行事なども、コロナの影響を受けて自粛・縮小等の対応をせざるを得ない状況であり、一日も早く本来の姿に戻ることを願っています。

このようなコロナ禍の中、各地域で工夫して地域活動を行っており、その様子を前号に続いて、「わがまちのふれあい活動」をテーマとして紹介しています。

ところで、予測が難しい自然災害は全国各地で起こり、想定外の甚大な被害をもたらしています。災害は避けることは出来ませんが、如何に被害を軽減するかです。防災は自治会活動の一つととらえ、普段から地域住民の絆を深め、防災意識を高めることが重要だと思えます。

今回は、平成23年3月に発生した東日本大震災に緊急消防救助隊で出動された真壁康夫さんに体験談の記載をお願いしました。私たちも真壁さんの「自治会活動は防災の始まり」を是非参考にしたいと思えます。終わりに、今回記事をお寄せいただいた皆様にお礼申し上げます。